

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：3 単位
 対象学年組：第 2 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（『古典探究』大修館書店）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたり必要な国語の知識や技能を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】考察力・共感性・想像力を伸ばし、自らの思いを他者に的確に発信する能力を育てる。
- 【学びに向かう力、人間性等】国際的視野をもち、自国文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたり必要な国語・古典の知識や技能を身につけるとともに、我が国の古典を主体的に読み、理解を深めることができるようにする。	古典作品において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	古典がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって我が国の文化の担い手である教養人として、言葉を通して他者や国際社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	A★古文を深く理解する ★和歌を詠む ★用言・助動詞の復習	「小野篁、広才のこと」 「花は盛り」 『玉勝間』 『方丈記』 『伊勢物語』 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	20
	B★漢文を深く理解する ★漢語の句形の復習 ★漢字に強くなる	故事・逸話 「漱石枕流」「塞翁が馬」 思想 「孔子・孟子・荀子・韓非子」 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		2
2 学期	A★平安文化を理解する ★和歌を理解する ★助動詞・敬語の復習	『更級日記』 『繪始日記』 『和泉式部日記』 『大鏡』 +歌論書 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	24
	B★中国文化を理解する ★漢文の句形の復習 ★漢字に強くなる	漢詩 「李白・杜甫・白居易他」 史伝 「項羽と劉邦」 「鴻門の会」 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	22
	定期考査						○	○		2
3 学期	A★古典の世界を探究する ★『源氏物語』から当時の人の人生を読む。 ★敬語・助詞の復習	『大鏡』 『源氏物語』 +近世の俳諧 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	14
	B★漢文の世界を探究する ★「史伝」から当時の人の人生を読む。 ★漢文の句形の復習	史伝 「項王の最後」 +「長恨歌」 小説 「定伯充鬼」 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
										合計
										117

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科：地理歴史 科目：世界史探究 単位数：3 単位
 対象学年組：第2学年 A組～B組

使用教科書：（世界史探究（東京書籍））

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史に関する理解を深め、諸資料から歴史に関する情報を読み取り、活用する能力を身につける。	歴史に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えて、諸課題を考察する歴史的思考力を培う。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に貢献できる資質と能力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	<p>○世界史探究の導入としての位置づけを踏まえ、生徒が現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ、世界史学習の意味や意義に気づくようにする。</p> <p>○各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。</p>	世界史へのまなざし 古代文明の出現	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりについて理解している。 ・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史的位置と人類の特性を考察し、表現している。 ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活から見る世界の歴史や、地球環境から見る人類の歴史について、課題意識や学習への見直しをもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ・「古代文明の出現」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	20
	<p>定期考査</p> <p>○西アジアと地中海周辺の国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点をもっているかについて理解する。</p> <p>○この世界で成立した宗教が現在の世界の宗教分布とどのように関係しているかについて理解する。</p> <p>○南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。</p>	西アジアと地中海周辺 南アジア	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 ・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、南アジアの歴史的特質を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、南アジアにおける宗教や文化の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「南アジア」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	20
	<p>定期考査</p>			○	○	○	1
	<p>○東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。</p> <p>○東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特徴について理解する。</p>	東南アジア 東アジアと中央ユーラシア アフリカ、オセアニア、古アメリカ	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の道や東南アジアの諸国家を基に、東南アジアの歴史的特質を理解している。 ・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ・自然環境との関わりなどを基に、ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴を理解している。 	○	○	○	1

2
学
期

<p>○ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。</p>		<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、東南アジアにおける宗教や文化の特色、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特色と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「東アジアと中央ユーラシア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら、学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	23
<p>定期考査</p> <p>○アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。</p> <p>○9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのような継承されていったのかなどについて理解する。</p>	<p>イスラーム世界の拡大と繁栄 中世ヨーロッパ</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。 ・ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イスラーム世界の拡大と繁栄」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 	○	○	1	23
<p>定期考査</p>			○	○	1	

<p>○歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。</p> <p>○インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。</p>	<p>中華世界の変容とモンゴル帝国 インド洋海域世界の発展と東南アジア</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。 ・ インド洋海域世界と東南アジアの発展などを基に、諸地域の交易の進展を構造的に理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ 諸地域の交易に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、インド洋海域世界と東南アジアの発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「中華世界の变容とモンゴル帝国」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・ 「インド洋海域世界の発展と東南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	13
<p>3 学 期</p> <p>○大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。</p> <p>○16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようにもたらされたのかなどについて理解する。</p>	<p>大交易時代と世界の一体化 ユーラシア諸帝国の繁栄</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 ・ 西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特徴を構造的に理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大交易時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・ 「ユーラシア諸帝国の繁栄」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	13
<p>定期考査</p>			○	○		1
						合計 117

高等学校 令和6年度(2学年用) 教科

社会 科目 日本史探究

教科: 社会

科目:

日本史探究

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 2 学年 A 組~ C 組

使用教科書: (詳説 日本史 (山川出版社))

教科 社会

の目標:

- 【知識及び技能】古代から中世にかかる日本史を理解し、日本社会がどのように変容したかについて多角的に分析し、考えられる力を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】古代から中世にかかる日本史を理解し、時系列や分野別などさまざまな視点から考え、表現できる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】古代から中世にかかる日本史を理解し、事象の因果関係や変化などを主体的に探究できる力を養う。

科目 日本史探究

の目標:

日本史を時系列や分野別などさまざまな視点から探究することで、物事を多角的に考える力を養う。また、現代社会に生じる諸問題に関して過去の歴史の知見を用い、解決できる力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・古代から中世にかかる日本史を理解し、政治的・外交的変容などを自分なりの言葉で説明することができる。 ・古代から中世にかかる日本史を理解し、日本の国家体制がどのように変容してきたかに関して自分なりの言葉で説明できる。	・古代から中世にかかる日本史を理解し、さまざまな事象の因果関係を考察し、その変化の様子など記述することができる。	・日本史で学習した内容を日常生活や既習内容と関連づけることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・旧石器時代の日本人がどのような生活をしていったかを理解し、農耕社会の成立後とどのような差異があるかを考えることができる。 ・農耕社会が成立し、身分が誕生したことによってどのような変化が起きたかを理解し、自分なりの言葉で説明できる。 ・弥生時代に小勢力であった権力者が、古墳時代に広域を支配する勢力へと拡大していく過程を理解し、社会にどのような変化が生じたかを考えることができる。 ・ヤマト政権はなぜ誕生し、どのように支配地域を拡大していったかを理解し、社会にどのような変化が生じたかを考えることができる。	日本文化のあけぼの 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権	【知識及び技能】 ・旧石器時代～古墳時代における歴史的事象を理解し、記述することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史的事象から共通点や相違点を見つけ、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本史で学習した内容を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	・遣隋使や遣唐使を派遣し、外邦の制度を学んだ日本が、どのようにオリジナルを改良し、律令国家を形成していったかを理解し、自分なりの言葉で説明できる。 ・奈良時代全体の歴史的事象を理解し、自分なりの言葉で奈良時代を概観することができる。 ・天平文化は、どのように生まれたかその経緯を理解し、この後の文化にどのような影響を考えたか説明することができる。	律令国家の形成 平城京の時代 天平文化	【知識及び技能】 ・飛鳥時代から奈良時代における歴史的事象を理解し、記述することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史的事象から共通点や相違点を見つけ、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本史で学習した内容を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	22
定期考査			○	○		1	
2 学期	・藤原北家がどのように勢力を伸長していったかを理解し、その過程を説明することができる。 ・摂関政治とはどのような仕組みであったかを理解し、当時の政治や社会などにどのような影響を考えたかについて考えることができる。	貴族政治と国風文化 摂関政治	【知識及び技能】 ・平安時代における歴史的事象を理解し、記述することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史的事象から共通点や相違点を見つけ、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本史で学習した内容を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1
	・国風文化がなぜ花開いたのかその理由を理解し、どのように発展していったかを説明できる。 ・平安時代における地方は、どのように変化していったかに関して、中央との関わりを踏まえて理解し、説明できる。 ・武士はなぜ誕生したかその理由を理解し、どのように中央や地方において勢力を拡大していったかに関して説明できる。	国風文化 地方政治の展開と武士	【知識及び技能】 ・平安時代における歴史的事象を理解し、記述することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史的事象から共通点や相違点を見つけ、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本史で学習した内容を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	24
定期考査			○	○		1	
3 学期	・中世の地方農村社会の変容を荘園公領制をベースに理解し、自分なりの言葉で概観することができる。 ・院政とはどのような仕組みであったかを理解し、その政権下で平氏がどのように権力を伸長していったかを説明することができる。 ・源家政権初平氏政権は、どのような政権であったかを理解し、その特徴を説明することができる。	中世社会の成立 院政と平氏	【知識及び技能】 ・平安時代における歴史的事象を理解し、記述することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史的事象から共通点や相違点を見つけ、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本史で学習した内容を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
							合計
							117

高等学校 令和6年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 地理探究

教科：地理歴史 科目：地理探究 単位数：3 単位
 対象学年組：第2学年 A組～C組

使用教科書：（新詳地理探究（帝国書院））

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 地理探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図をはじめとする諸資料を用いて、地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、地理に関する理解を深め、活用する能力を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準 ①=知・技、②=思・判・表、③=主	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1部第1章 自然環境 ①. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 自然環境について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	地球環境と人間 地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	①. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 自然環境について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
	第2章 資源と産業 ①. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 資源、産業について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 エネルギー問題 工業 第3次産業	①. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 資源、産業について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。	○	○	○	21
定期考査				○	○		1
2 学 期	第3章 交通・通信と観光・貿易 ①. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や交通・通信・観光に関する問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 交通・通信・観光について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	交通・通信 観光 貿易と経済圏	①. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や交通・通信・観光に関する問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 交通・通信・観光について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。				
	第4章 人口、村落・都市 ①. 人口、村落・都市などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 人口、村落・都市などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 人口、村落・都市について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	①. 人口、村落・都市などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 人口、村落・都市などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 人口、村落・都市について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。	○	○	○	23

高等学校 令和6年度（2学年用）教科公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 A組～C組

使用教科書：（詳述 公共（実教出版））

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A 公共の扉 【知識及び技能】 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 公共的な空間における基本的原理について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	(1) 生涯における青年期の意義 (2) 青年期と自己形成の課題 (3) 職業生活と社会参加 (4) 現代社会と青年の生き方 (5) ギリシアの思想 (6) 宗教の教え (7) 人間の尊重 (8) 人間の自由と尊厳	【知識・技能】 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 【思考・判断・表現】 当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における基本的原理について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	12	
	定期考査			○	○		1	
1 学期	B 公共の扉 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果を重視する考え方や、行為の動機を重視する考え方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思考実験などの活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	(9) 個人と社会 (10) 主体性の確立 (11) 他者の尊重 (12) 公正な社会 (13) 人間の尊厳と平等 (14) 自由・権利と責任・義務 (15) 人権保障の発展と民主政治の成立 (16) 国民主権と民主政治の発展	【知識・技能】 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果を重視する考え方や、行為の動機を重視する考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 思考実験などの活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	14	
	定期考査			○	○		1	
2 学期	C よりよい社会の形成に参加する私たち 【知識及び技能】 法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、権利や自由が保障され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 Bと同様	(1) 日本国憲法の成立 (2) 平和主義とわが国の安全 (3) 基本的人権の保障 (4) 人権の広がり (5) 政治機構と国民生活 (6) 人権保障と裁判所 (7) 地方自治 (8) 選挙と政党 (9) 政治参加と世論 (10) 経済社会の形成と変容 (11) 市場のしくみ	【知識・技能】 法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、権利や自由が保障され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 【思考・判断・表現】 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 Bと同様	○	○	○	15	
	定期考査			○	○		1	
2 学期	D よりよい社会の形成に参加する私たち 【知識及び技能】 より活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 Cと同様 【学びに向かう力、人間性等】 Bと同様	(12) 現代の企業 (13) 経済成長と景気変動 (14) 金融機関の働き (15) 政府の役割と財政・租税 (16) 日本経済の歩みと近年の課題 (17) 中小企業と農業 (18) 公害防止と環境保全 (19) 消費者問題 (20) 労働問題と雇用 (21) 社会保障	【知識・技能】 より活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考・判断・表現】 Cと同様 【主体的に学習に取り組む態度】 Bと同様	○	○	○	15	
	定期考査			○	○		1	
3 学期	E よりよい社会の形成に参加する私たち 【知識及び技能】 現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は利害の対立状況を調整して合意を形成することを通して築かれるものであることを理解する。 【思考・判断・表現】 Cと同様 【主体的に学習に取り組む態度】 Bと同様	(22) 国際社会における政治と法 (23) 国家安全保障と国際連合 (24) 冷戦終結後の国際政治 (25) 軍備競争と軍備縮小 (26) 異なる人種・民族との共存 (27) 国際平和と日本 (28) 国際経済のしくみ (29) 国際経済体制の変化 (30) 経済のグローバル化と金融危機 (31) 地域経済統合と新興国 (32) ODAと経済協力	【知識・技能】 現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は利害の対立状況を調整して合意を形成することを通して築かれるものであることを理解している。 【思考・判断・表現】 Cと同様 【主体的に学習に取り組む態度】 Bと同様	○	○	○	10	
	定期考査			○	○		1	
3 学期	F 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 【思考力、判断力、表現力等】 課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標に、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。 【学びに向かう力、人間性等】 Bと同様	・各班ごとに、具体的な主題を設定し、協働して考察し、まとめ、自分たちの考えを発表する。	【思考・判断・表現】 課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標に、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 【主体的に学習に取り組む態度】 Bと同様		○	○	7	
	定期考査			○	○		1	
							合計	78

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学科 科目 数学Ⅱ

教科：数学科 科目：数学Ⅱ 単位数：4 単位
 対象学年組：第 2 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（数研出版 数学Ⅱ）

教科 数学科 の目標：

- 【知識及び技能】 図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 【学びに向かう力、人間性等】

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列や統計及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>1 数列</p> <p>○数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。</p> <p>○和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。</p> <p>○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。</p>	<p>1 数列と一般項</p> <p>2 等差数列</p> <p>3 等差数列の和</p> <p>4 等比数列</p> <p>5 等比数列の和</p> <p>6 和の記号Σ</p> <p>7 階差数列</p> <p>8 いろいろな数列の和</p> <p>9 漸化式</p> <p>10 数学的帰納法</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数列の定義、表記について理解している。 ○数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ○等差数列の公差、一般項などを理解している。 ○初項と公差を式で表して、条件から数列の一般項を決まることができる。 ○等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。 ○自然数の和、奇数の和、偶数の和などが求められる。 ○等比数列の公比、一般項などを理解している。 ○等比数列の公比と初項を式で表して、条件から数列の一般項を決まることができる。 ○等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 ○等比数列の和の公式を利用して、和の値から数列の一般項を決まることができる。 ○和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ○漸化式の形を正確に理解し、具体的な和が求められる。 ○数列の和と漸化式の関係を正確に理解し、数列の一般項が求められる。 ○階差数列を利用し、初項の扱いに注意して一般項が求められる。 ○和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ○漸化式を適切に形変して、その数列の特性を考察することができる。 ○おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。 ○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ○数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 ○命題の真偽に切り立つ不確かさ、数学的帰納法を用いて証明できる。 ○命題を自然数の整数であることを、式を用いて表現できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数の並びからその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。 ○等差数列の項を並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ○等比数列の項を工夫して求める方法について考察できる。 ○数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡潔に行うことができる。 ○和Σについて、既に学んだ等比数列の和と比べて求めることができる。 ○数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 ○初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ○階差数列を正確に理解し、ある特定の項に関する数の和が求められる。 ○初項と漸化式を用いて数列を正確に求めることができる。 ○複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ○自然数に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることを理解している。 ○数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらと比較すること、念命的に考慮することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 ○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組む意欲がある。 ○等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ○等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○階差数列に興味をもち、意欲をもつ。 ○おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、意欲をもつ。 ○$an+1=pan+q$を導いた数列の階差数列について、具体的に考察しようとする。 ○数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。 	○	○	○	54
定期考査			○	○		2

<p>微分法と積分法 ○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 ○積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減とグラフの応用 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積 9 体積 	<p>【知識・技能】 ○微分係数と導関数について微分係数を求めるとき、分母の h は0でないことを理解している。 ○平均変化率、微分係数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ○微分係数の図形的意味を理解している。 ○定積分として導関数を求める方法を理解している。 ○導関数の性質を利用して、関数の導関数を計算することができる。 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ○関数が、y 以外の関数について、導関数が求められる。 ○関数の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 ○接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ○関数の導関数の公式を利用して、関数の方程式を求めることができる。 ○導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 ○関数の増減や極値を調べるのに、導関数を用いて考察している。 ○導関数を利用して、関数の極値を求めるたり、グラフをかいたりすることができる。 ○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ○導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ○最大・最小の応用問題では、関数のとり方、定導関に注意して解くことができる。 ○導関数を利用して、方程式の整数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ○不等式 $f'(x) > 0$ を、関数 $y=f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。 【思考・判断・表現】 ○平均変化率における x の変化量 h は0でないことを理解している。 ○導関数を表す関数の定義を導関数として、それらを適切に説明することができる。 ○定積分から導関数を導くとき、積微法における積微法が成り立つと読み替えることができる。 ○接線の傾きで関数の増減を調べることを理解している。 ○$f'(x) > 0$ のとき、$f(x)$ が極値であるための必要十分条件はあらず、十分条件であることを理解している。 ○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、定導関を用いて考察している。 ○方程式の整数解の個数、関数のグラフと x 軸との交点の個数に読み替えて考察できる。 ○不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。 ○積分法の意味合いとしての不定積分を考察することができる。 ○定積分の性質の考察を、正負から判定、近似から近似への考察として利用できる。 ○面積が y である定積分を、x の関数とみることができる。 ○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。 ○図形的な考察に留意した面積計算をすることができる。 ○関数のグラフと x 軸とで囲まれたものの部分の面積を求めることができる。 ○軸を軸とする回転体の断面は円となることを理解し、回転体の体積について考察することができる。</p>		31
<p>定期考査</p>			○ ○	1
<p>統計的な推測 ○確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 ○母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 5 正規分布 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定 9 仮説検定 	<p>【知識・技能】 ○確率変数と確率分布について、用語の意味を理解している。 ○確率変数の確率分布を求めることができる。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ○確率変数の期待値(平均値)などの計算式を理解して活用できる。 ○確率変数の和と期待値、分散を公認を利用して求めることができる。 ○連続型確率分布の期待値、確率変数の和の期待値の公式を利用して求めることができる。 ○確率変数の独立について理解している。 ○独立な確率変数の和の期待値、分散を利用して求めることができる。 ○独立な確率変数の積の期待値、分散を利用して求めることができる。 ○正規分布の性質を、二項分布を用いて表すことができる。 ○二項分布に近い確率変数の期待値や分散を求めることができる。 ○確率変数 X が母集団の性質を反映し、連続型確率分布について、確率を求めることができる。 ○正規分布に近い確率変数に正規分布に近い確率変数に近似できる。 ○標準正規分布に近い確率変数についての確率を求めることができる。 ○標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。 ○日常の身近な問題を統計的に処理するには、正規分布を利用できる。 ○二項分布に近い確率変数に関する確率の計算を、正規分布に近い確率変数に近似して求めることができる。 ○連続型確率変数について理解し、その期待値と分散を求める。 ○既出抽出と非既出抽出について理解している。 ○母集団分布と大きさ n の標本が標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。 ○標本平均と母標準偏差が一致することを理解している。 ○標本平均と母標準偏差が一致することを理解している。 ○標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ○推定に関する用語、記号を適切に活用することができる。 ○信頼区間の考え方を理解し、母平均や母比率の推定ができる。 ○仮説検定に関する用語を適切に活用することができる。 ○仮説検定の考え方を理解し、日常の身近な事象に対する主張を検査することができる。 【思考・判断・表現】 ○統計の検定を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ○確率変数の和の期待値や分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 ○具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ○正規分布の性質を理解し、様々な現象がとらえられることができる。 ○正規分布を前提として母集団の平均値について考察することができる。 ○母集団分布と大きさ n の標本が標本の確率分布が一致することについて考察できる。 ○母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 ○標本の大きさを大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。 ○大数の法則について理解し、標本の大きさが大きくなる時の標本平均の分布の変化の様子について考察できる。 ○推定や信頼区間の考え方がわかる。 ○仮説検定の考え方がわかる。 ○片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするかを正しく判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○確率的な統計的推測を学ぶのに確率分布を用いることの上記に依り、確率分布について積極的に考察しようとする。 ○確率変数の期待値、分散に関する確率の公式を、その定導関の公式を用いて導こうとする。 ○2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する確率の公式を、確率変数が独立であるかどうかに注意しながら導こうとする。 ○二項分布のグラフに興味をもつ。様々な事象がどのような確率分布について考察しようとする。 ○二項分布に近い確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の性質から導こうとする。 ○二項分布のグラフに興味をもつ。興味をもつ。興味をもつ。 ○連続型確率変数について、連続型確率変数との違いに注目して捉えようとする。 ○既出のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもつ。様々なデータについて考察しようとする。 ○二項分布について、統計的推測が大きなときと母集団の分布の変化をコンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。 ○母平均や母比率の推定に留意し、信頼区間の幅と標本の大きさと信頼度との関係を考察しようとする。 ○仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもつ。既出の問題の解決に留意しようとする。</p>	○ ○ ○	31
<p>定期考査</p>			○ ○	1

2 学期

	<p>1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形</p>	<p>【知識・技能】 ○1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 ○再説複素数を求めることができる。 ○複素数平面上で、実軸、虚軸、原点、虚軸に関して対称な点を複素数で、もとの複素数に対してこのような点があるが、理解している。 ○再説複素数の図形的意味を理解し、2が実数であるための必要十分条件、2が純虚数であるための必要十分条件を理解している。 ○複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。 ○複素数の和、差、共役複素数を計算することができる。 ○複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ○複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、それらを求めることができる。 ○複素数の複素共役が複素数平面上で何を表すか理解している。 ○ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。 ○1のn乗根を求めることができる。 ○複素数の分母の分母を複素数を乗ずる複素数を求めることができる。 ○複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。 ○原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 ○複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。 ○複素数平面上で2点が一直線上にある条件や直線に交わる条件を理解し、利用することができる。 【思考・判断・表現】 ○複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し、説明できる。 ○複素数の和、差、共役複素の、複素数平面における図形的意味を理解し、説明できる。 ○再説複素数の性質を理解し、また、それらを証明問題に利用することができる。 ○再説複素数z^{-1}などを極形式でどのように表すが、その意義から考察できる。 ○複素数のn乗根がどのように存在することを、極形式を用いて考察できる。 ○1のn乗根の求め方をもとに、一般の複素数のn乗根を求めることができる。 ○複素数の分母の分母を乗ずる複素数を利用して、三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 ○nとnで動く点nが動く図形について、その図形的意味も含めて考察したり説明したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○複素数平面の意義から、複素数の和、差や共役複素が複素数平面上で何を意味するかを考察しようとする。 ○複素数が共役複素数になる条件について、様々な方法で考察しようとする。 ○複素数が$a+bi$とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を見出そうとする。 ○極形式の有用性を理解し、複素数の乗法の図形的意味を理解しようとする。 ○複素数の積の図形的意味から、ド・モアブルの定理を見出したり説明したりしようとする。 ○複素数のn乗根を複素数平面上で図示し、その特徴を見出そうとする。 ○図形的問題を、複素数の偏角の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 ○複素数の方程式が表す図形について、複素数を$z+1$と置くなどして、複素数の方法で考察しようとする。</p>				35
定期考査			○	○		1 合計 156

高等学校 令和6年度（2学年用）教科 数学 科目 数学B

教科：数学 科目：数学B 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ C組

使用教科書：（数研出版 数学B 数学C（数研出版 体系数学4））

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
数列、等差数列、等比数列、和の記号Σ	<p>・指導事項</p> <p>等差数列、等比数列などの簡単な数列について、一般項や第n項までの和を求めたり、記号Σの意味を理解してそれを利用したりできるようにするとともに、事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する力を養う。</p> <p>・教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。○数列の定義、表記について理解している。○等差数列の公差、一般項などを理解している。また、条件から等差数列の一般項を決定できる。○等差数列の和の公式を適切に利用して、等差数列の和が求められる。○等比数列の公比、一般項などを理解している。また、条件から等比数列の一般項を決定できる。○等比数列の和の公式を適切に利用して、等比数列の和が求められる。○和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。○数列の第n項をkの式で表すことで、初項から第n項までの和が求められる。</p> <p>【思考・判断・表現】○数列の一般項を表す式を、定義域が自然数であるnの関数と捉え、新しい概念である数列を、既習の関数と関連付けて考察できる。○数列の並び方からその規則性を推測して、数列の一般項を考察できる。○等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。○項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。○等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。○Σの性質を利用して、和の計算を簡単に行うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○数列の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。○総計計算に興味、関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。○自然数の2乗の和や3乗の和の公式を導こうとする意欲がある。</p>	○	○	○	13
いろいろな数列	<p>等差数列、等比数列などの簡単な数列について、一般項や第n項までの和を求めたり、記号Σの意味を理解してそれを利用したりできるようにするとともに、事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する力を養う。</p>	<p>【知識・技能】○階差数列について理解し、それを利用して、もとの数列の一般項が求められる。○数列の和と第n項の関係を理解し、数列の一般項が求められる。和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。</p> <p>【思考・判断・表現】○数列の規則性の発見に、階差数列が利用できる。○初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。○$f(n+1) - f(n)$を用いる和の求め方を理解し、具体的な問題に活用することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。○階差数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。</p>	○	○	○	
定期考査			○	○		1
漸化式と数列 数学的帰納法	<p>・指導事項</p> <p>数列の考え方をもとにして、漸化式と数学的帰納法について理解できるようにするとともに、事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考え方を問題解決に活用する力を養う。更に、自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較して多面的に考察する力を養う。</p> <p>・教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。○数学的帰納法を用いて、等式を証明できる。○数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。○数学的帰納法を用いて、不等式を証明できる。</p> <p>【思考・判断・表現】○漸化式を適切に変形して、数列の特徴を考察することができる。○与えられた条件からa_nとa_{n+1}の間に成り立つ漸化式を求めて考察することができる。○自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解し、活用することができる。○数列の一般項を推測し、それが正しいことの証明に数学的帰納法を活用することができる。○数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらと比較するなど、多面的に考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について考察しようとする。○確率の問題に漸化式が利用できることに興味、関心をもち、問題解決に利用しようとする。○数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。</p>	○	○	○	7
平面上のベクトル、ベクトルの演算、ベクトルの成分、ベクトルの内積	<p>・指導事項</p> <p>平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。○ベクトルの向き、相等について理解している。○ベクトルの演算の仕組みを理解し、ベクトルについて、加法、減法、実数倍を考察することができる。○ベクトルの平行条件を理解し、1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> ・教材 ・一人1台端末の活用 等 	<p>式で表現して利用できる。○ベクトルの分解について理解し、ベクトルを2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。○成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。○成分表示されたベクトルを、2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。○内積は実数であることを理解している。○大きさとなす角でベクトルの内積を計算することができる。また、成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。○ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。○ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。○内積の性質を理解し、計算に利用できる。</p> <p>【思考・判断・表現】○ベクトルの演算において成り立つ法則について、考察することができる。○和や差における逆ベクトルや零ベクトルの役割を理解している。○ベクトルの平行条件を、成分表示されたベクトルにも適用し、成分を求めることができる。○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。○内積の性質を用いて、ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○平面上の図形の移動、力、速度など身近な例からベクトルで表されるものを見つけてようとする。○ベクトルの演算に興味、関心をもち、数式の演算法則との類似性を考察しようとする。○ベクトルと座標平面を関連させ、ベクトルが成分で表現できることに興味、関心をもち、○座標平面上の図形の問題について、ベクトルを活用して解く解法を知り、ベクトルを用いない場合の解法と比較して考察しようとする。○ベクトルの内積のもつ図形的意味を探ろうとする態度がある。○三角形の面積が内積で表せることに興味、関心をもち、問題解決に利用しようとする。</p>	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
位置ベクトル、ベクトルと図形、ベクトル方程式 ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等 	<p>【知識・技能】○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。○線分の内分点、外分点、三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。○3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。○線分上の点を、線分を$s:(1-s)$に内分する点として処理できる。○直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。○通る1点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。○ベクトルを用いて2直線のなす角を求めることができる。○円や円の接線のベクトル方程式を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。○図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。○ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。○垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。○直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線のベクトル方程式と関連付けることができる。○点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○線分ABを$m:n$に内分する点の位置ベクトルを表す式が、mとnの大小関係に関わらず同じであることに興味をもち、確かめようとする。○位置ベクトルを用いて、平面図形についての命題を証明しようとする。○ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。○点と直線の距離の公式が、ベクトルを利用して導けることに興味をもち、公式を証明しようとする。</p>	○	○	○	17
定期考査			○	○		1
空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの成分 位置ベクトル ベクトルと図形 空間座標における図形	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。 ・教材 ・一人1台端末の活用 等 	<p>【知識・技能】○空間における図形を、座標を利用して示すことができる。○座標空間において、点の座標、2点間の距離などが求められる。○空間図形において、ベクトルの和や差を考察することができる。○空間のベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。○成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。○成分表示されたベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。○立体図形におけるベクトルの内積を、適切な方法で計算できる。○ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。○ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。○位置ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。○空間において3点が一直線上にあるための条件を理解している。○ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。○ある点が3点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。○座標空間における線分の内分点・外分点などの座標が求められる。○座標軸に垂直な平面の方程式、球面の方程式について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】○空間のベクトルを、平面上のベクトルの拡張として捉えることができ、平面上のベクトルで成り立つ性質が、空間においても同様に成り立つことを理解している。○空間のベクトルの成分表示を、平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。○空間のベクトルの内積を、平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。○座標空間の3点で定まる三角形の角の大きさを、ベクトルを利用して求めることができる。○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。○位置ベクトルの一意性を理解し、図形の性質を証明できる。○3点が</p>	○	○	○	13

		<p>一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。○3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。○線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。○内積を利用して、直線に垂線を下したときの交点の座標を求めることができる。○空間ベクトルを利用して、線分の分点の座標などを考察できる。○球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として捉えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。○空間のベクトルと平面上のベクトルを比較して考察しようとする。○空間のベクトルの成分表示と平面上のベクトルの成分表示を比較して考察しようとする。○空間のベクトルの内積と平面上のベクトルの内積を比較して考察しようとする。○成分表示されたベクトルの内積の公式を、平面の場合の拡張として導こうとする。○四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。○3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。○球面の方程式に興味をもち、考察しようとする。○座標空間における平面の方程式、直線の方程式に興味をもち、考察しようとする。</p>						
	定期考査							1
3学期	<p><理系クラス>微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第2次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数 接線と法線 平均値の定理 関数の値の変化 関数の最大と最小 関数のグラフ 方程式、不等式への応用</p> <p>・指導事項 微分の公式を導き出し、和、差、積、商及び合成関数、逆関数の微分法を理解できるようにする。多項式関数だけでなく、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解できるようにする。さまざまな関数について、接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形をかいたりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。</p> <p>・教材 一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○微分係数の定義と、その図形的意味を理解している。○微分可能性と連続性の関係を理解し、連続ではあるが微分可能でないことを示せる。○導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分できる。○導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を利用して、種々の導関数を求めることができる。○三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、三角関数、対数関数、指数関数を含む種々の関数の導関数を求めることができる。○aが実数のとき、$(x, a)^T = ax + a - 1$が成立することを理解している。○対数微分法を利用して、複雑な関数を微分できる。○第2次導関数の定義とその表現方法を理解し、種々の関数の第2次導関数が求められる。○方程式$f(x, y) = 0$を関数とみて、合成関数の導関数を利用して微分できる。○曲線の媒介変数表示を理解し、媒介変数で表された関数の導関数が求められる。○微分係数の意味を理解しており、接線の方程式が求められる。○公式を利用して、法線の方程式が求められる。○$F(x, y) = 0$で表された曲線の接線の方程式を、陰関数の微分法を利用して求められる。○平均値の定理と、その図形的意味を理解し、具体的にaの値を求めることができる。○導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減や極値が調べられる。○$f'(x)$が$x=a$で微分不可能な場合にも、増減表から$f'(a)$が極値になるかどうかを判定できる。○関数の極値に関する条件から、関数を決定することができる。○導関数を利用して増減表をかくことができ、関数の最大値・最小値が求められる。○曲線の凹凸の定義を理解し、第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。また変曲点が求められる。○導関数、第2次導関数を利用して、増減、凹凸、変曲点、漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができる。○第2次導関数を利用して、増減表をかくなくても極値が求められる。○導関数を利用して、不等式の証明問題、方程式の実数解の個数問題を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察できる。○導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。○導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を定義に基づいて証明できる。○三角関数、対数関数、指数関数を含む関数を合成関数とみて、合成関数の微分法を利用することができる。○自然対数の底eを考える必然性を理解している。○第2次導関数、第3次導関数を求めることで、一般の第n次導関数を予想し、求めることができる。○方程式$f(x, y) = 0$を陰関数とみる考え方を理解している。○1つの曲線がいろいろな式で表されることを理解し、その導関数について考察することができる。○接線に直交する条件と、直線の方程式の公式から、法線の方程式の公式を考えることができる。○曲線外の点Cから曲線に接線を引き、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて、接線の方程式を求めることができる。○共通な接線をもつ条件を理解し、問題の解決に利用できる。○平均値の定理を利用して、不等式を証明できる。○平均値の定理を利用して導関数の符号と関数の増減の関係を証明する方法を理解している。○$f'(a) = 0$は、$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。○関数の極値に関する条件から関数を決定する際に、必要十分条件に注意している。○最大・最小の応用問題で、変数のとり方、定義域に注意している。○関数の定義されていないところや、$x \rightarrow \pm\infty$のときの状態を調べて、関数のグラフをかくことができる。○不等式を、関数の値に関する条件式に読み替えて考察できる。○方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸に平行な直線との共有点の個数に読み替えて考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○微分係数の図形的意味を考察しようとする。○微分可能性と連続性の関係について、興味、関心をもつ。○さまざまな導関数の性質や公式に興味をもち、定義に基づいて証明しようとする。○$(x, a)^T = ax + a - 1$において、aの範囲を自然数、整数、有理数と拡張していく考え方に興味をもち、考察しようとする。○関数の極限としての底e（自然対数の底）について興味をもち、考察しようとする。○aが実数のとき$(x, a)^T =$</p>					17	

		<p>$\alpha x^{\alpha} - 1$が成り立つことの証明に対数微分法が利用できることに興味をもち、考察しようとする。○陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について、その簡便さを理解し、積極的に利用しようとする。○方程式の重解と微分の関係についての証明に関心をもち、考察しようとする。○平均値の定理に興味をもち、図形的意味を考察しようとする。○平均値の定理の証明に興味をもち、考察しようとする。○関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。○身近にある最大値・最小値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。○関数のグラフのさまざまな形に興味をもち、これまで学んだことを利用して調べようとする。○方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。</p>				
<文系クラス>総合問題演習	既習事項の基礎・応用の問題に取り組む	<p>【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。</p>				
定期考査			○	○		1
						合計
						78

高等学校 令和6年度(2学年用) 教科

理科 科目 化学基礎

教科: 理科

科目:

化学基礎

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 2 学年 A 組~ C 組

使用教科書: (啓林館 「化学基礎」)

教科 理科

の目標:

- 【知識及び技能】自然の事象・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】自然の事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎

の目標:

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、学習内容の原理や法則を正しく理解している。安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。	化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。	・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
化学と人間生活との関わり、および、化学が人間生活を支えていることを理解することができる。 元素および原子の構造や分子・イオンについて電子配置をもとに理解する。 化学結合の種類、どのような力で結合しているかなど結合の仕組みについて理解することができる。原子量の定義や計算方法を理解する。物質量の定義を学び、物質量、質量、体積の関係を理解する。	・化学と人間生活 ・物質の構成	【知識及び技能】 ・元素記号、化学式、物質名を正しく書ける。 ・学習内容の原理や法則を正しく理解している。 ・安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 ・結合や化学反応を原子・分子の視点で説明できる。 ・物質量を用いて、化学反応を考慮することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	18
定期考査			○	○		1
物質量を使って物質の量を換算することができる。基本となる物質の化学式を覚え、化学式の係数を正しくつける。化学変化における量の関係を考えることができる。 酸塩基の代表的な物質を覚え、電離式を正しく書ける。酸・塩基の定義を電離式をもとに説明することができる。水素イオン濃度、pHおよび中和の量的関係を理解することができる。中和滴定の器具の名前、使い方を理解する。未知の濃度の酸の濃度を中和滴定の実験で求める。	・物質の構成 ・物質の変化	【知識・技能】 ・化学反応式の係数を正しく書ける。 ・酸・塩基の定義や中和を説明することができる。 ・安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。 【思考・判断・表現】 ・化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。	○	○	○	22
定期考査			○	○		1
酸化・還元を学習を通して、酸化数の変化から酸化と還元を判断することができる。酸化剤と還元剤の代表的な半反応式を書くことができ、半反応式を組み合わせて、酸化還元反応式を組み立てることができる。 Daniell電池、アルカリ乾電池、鉛蓄電池、燃料電池などの代表的な電池を学び、電池の名前、電極、電解液溶液を覚え、各種での反応をイオン化傾向をもとに考えることができる。 電気分解の種類、陰極で起こる反応を、電極や水溶液中の物質から推定することができる。	・物質の変化	【知識及び技能】 ・酸化と還元の種類を説明することができる。 ・色々な電池の構成や各種での反応式を正しく書ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。	○	○	○	23
定期考査			○	○		1
周期表のどの位置にどの元素が配置されているのかを、電子配置をもとに説明できる。典型元素と遷移元素の違いを具体例を挙げて説明できる。非金属元素の単体、化合物の性質を周期表をもとに理解する。無機物質の製造と性質を理解し、無機物質の反応を、酸塩基反応および酸化・還元反応の考え方を駆使して理解することができる。	無機物質 非金属元素	【知識及び技能】 ・周期表で各族の元素の位置が正しくわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・周期表をもとに各族の性質や反応を説明できる。 ・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。				23
定期考査			○	○		1
典型金属の単体、化合物の性質を周期表をもとに理解する。アルカリ金属、アルカリ土壌金属、両性元素の性質、反応の類似点、相違点を比較しながら学ぶ。 遷移金属の代表的な元素を覚え、その元素の単体、化合物の性質、反応を類似点、相違点を比較しながら学ぶ。金属イオンの確認方法を学び、複雑な金属イオンが混合した水溶液から系統的に金属イオンを分離する方法を理解する。	無機物質 ・典型元素 ・遷移元素	【知識及び技能】 ・周期表で各族の元素の位置が正しくわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・周期表をもとに各族の性質や反応を説明できる。 ・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。				26
定期考査			○	○		1
						合計
						117

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物

教科：理科 科目：生物 単位数：3 単位
 対象学年組：第1学年 A組～B組

使用教科書：（生物 東京書籍）

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	1. 生物の進化 【知識及び技能】 生物の進化について、観察、実験などを行い、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の進化についての特徴を見出して表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 進化に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。	・指導事項 生物の進化 ・主な実験、観察、ワーク 生物の採取と分類、進化のモデル実験 ・教材 東京書籍 生物、第一学習社 スクエア最新図説生物	【知識・技能】 生物の進化について、基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の進化についての特徴を見出して表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 進化に関する事物・現象に主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。	○	○	○	22
	2. 遺伝情報の発現とヒトの生物学 【知識及び技能】 遺伝情報の発現と、遺伝子を扱う技術について、基本的な概念や原理を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 遺伝子を扱う技術などについて、日常生活や社会と関連付けて探究し、他者との議論を通して自分の考えを表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 遺伝情報に関連する事象・事例に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重する態度を養う。	・指導事項 遺伝情報の発現とヒトの生物学 ・主な実験、観察、ワーク 遺伝子診断に関するワーク ・教材 東京書籍 生物、第一学習社 スクエア最新図説生物	【知識及び技能】 遺伝情報の発現と、遺伝子を扱う技術について、基本的な概念や原理を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 遺伝子を扱う技術などについて、日常生活や社会と関連付けて探究し、他者との議論を通して自分の考えを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 遺伝情報に関連する事象・事例に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	19
				○	○		1
2 学期	3. 植物の環境応答 【知識及び技能】 植物の環境応答について、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 植物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 植物の環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。	・指導事項 植物の環境応答 ・主な実験、観察、ワーク 植物の発生、種子の発芽、植物の成長に関する観察と実験、 ・教材 東京書籍 生物、第一学習社 スクエア最新図説生物	【知識・技能】 植物の環境応答について、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 植物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 植物の環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	4. 生態と環境 【知識及び技能】 生態と環境について、基本的な概念や原理・法則などを理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	・指導事項 生態と環境 ・主な実験、観察、ワーク 個体群密度の実験、地球環境と生態学に関するワーク	【知識・技能】 生態と環境について、基本的な概念や原理・法則などを理解している。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。				

高等学校 令和6年度(2学年用) 教科 保健体育 科目 体育

教科: 保健体育 科目: 体育

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 A 組~ C 組

使用教科書: (現代高等保健体育 (大修館書店))

教科 保健体育

の目標:

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参加する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>体育理解</p> <p>【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組む。</p>	<p>・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ</p>	<p>【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 【思考力、判断力、表現力】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んだ。</p>	○	○	○	2
<p>体づくり運動</p> <p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、割合に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<p>・体づくり運動 ・実生活に生かす運動の計画</p>	<p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、割合に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができた。</p>	○	○	○	2
<p>球技・ゴール型(バスケットボール)</p> <p>【知識及び技能】 パス、ドリブルなどのボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入し、シュートにつなげることができ、システムを理解し、集団的技術としてチームで連携した防御ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、また、互いに助け合い教え合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。</p>	<p>・パス、ドリブル、シュート等の個人技能を向上させ、それらの技能や仲間と連携した動きを用いて、ゲームにおける攻防を行う。</p>	<p>【知識及び技能】 パス、ドリブルなどのボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入し、シュートにつなげることができ、システムを理解し、集団的技術としてチームで連携した防御ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、また互いに助け合い教え合おうとすることなどや健康・安全を確保することができた。</p>	○	○	○	14
<p>陸上競技(やり投げ、ハードル)</p> <p>【知識及び技能】 やり投げ、ハードル走の種目について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、それぞれの種目特有の技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切に、自己の責任を果たすことができる。また、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康・安全を確保できるようにする。</p>	<p>・やり投げは、やりの握り方、やりの保持、やりの引き出しなどの基本動作を身につけ、やりの突き刺しから試合用の投げまで発展させる。 ・ハードル走は、振り上げ脚・抜き足の基礎技能を習得し、正しくハードルを走り越すことができるようになる。</p>	<p>【知識及び技能】 やり投げ、ハードル走の種目について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たすこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとする。</p>	○	○	○	10
<p>水泳</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たすこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとする。</p>	<p>・クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳の4種類の泳法をつなげた個人メドレーを学習する。 ・スタート、ターン、フィニッシュの技能を習得し、100m個人メドレーの完泳を目指し、記録向上に挑戦する。</p>	<p>【知識・技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たすこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとする。</p>	○	○	○	10

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

保健体育

科目 保健

教科：保健体育

科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 A組～ C組

使用教科書：（現代高等保健体育（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>生涯を通じる健康</p> <p>【知識】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解する。 労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理を必要があることを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 	<p>【知識】 ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解できた。 ・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理を必要があることを理解した。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組んだ。</p>	○	○	○	13
定期考査			○	○		1

2 学期	<p>【知識】 ・適切なテーマ設定ができる。 ・テーマについて、資料等から正しい知識を収集することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 それぞれのテーマについて課題を見つけ出し、現状と問題点をグループで分担しながら調べを進めることができる。 ・各自が調べたものをグループとしてレポートにまとめることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーマについて関心をもって、グループで協力しながら、積極的に課題に取り組もうとする。</p>	<p>現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康と、以下の健康を支える環境づくりから学習テーマを設定し、テーマについてのレポート作成及び、そのテーマについてディベートを行う準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染と健康 ・水質汚濁と土壌汚染と健康 ・健康と健康に関わる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生に関わる活動 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 	<p>【知識】 ・適切なテーマ設定ができた。 ・テーマについて、資料等から正しい知識を収集することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・それぞれのテーマについて課題を見つけ出し、現状と問題点をグループで分担しながら調べを進めることができた。 ・各自が調べたものをグループとしてレポートにまとめることができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーマについて関心をもって、グループで協力しながら、積極的に課題に取り組もうとした。</p>	○	○	○	16
3 学期	<p>【知識】 他のグループのディベートを聴講し、テーマにおける課題と肯定側および否定側の主張を理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 (ディベート班) 班で用意したことをそれぞれの発表分担と自由討論で積極的に発言できる。 (聴衆者) ディベートを聞きながら、その合理性を判断し、自らの見解を構築することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 班の仲間と協力して、ディベート発表に積極的に取り組むことができる。 ディベートの司会、記録、判定の集計を協力して行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート発表及び考察 各グループは40分程度でディベートを行う。 発表グループはレジメを事前に提出する。 聴衆者は毎回のディベートを聞き、自分の考えをまとめるとともに相互評価を行う。 	<p>【知識】 ・他のグループのディベートを聴講し、テーマにおける課題と肯定側および否定側の主張を理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 (ディベート班) 班で用意したことをそれぞれの発表分担と自由討論で積極的に発言できた。 (聴衆者) ディベートを聞きながら、その合理性を判断し、自らの見解を構築することができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・班の仲間と協力して、ディベート発表に積極的に取り組むことができた。 ・ディベートの司会、記録、判定の集計を協力して行うことができた。</p>	○	○	○	9
							合計
							39

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（ ELEMENT Ⅱ English Communication Ⅱ ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書						
1 学 期	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。	Lesson 1 Cultures around the world Lesson 2 Power of Words ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト/Speech ⑤ Writing ⑥ 提出物等	○	○	○	17
	定期考査		○	○			○				1	
	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。	Lesson 3 Preconception Lesson 4 The Century of War ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト/Speech ⑤ Writing ⑥ 提出物等	○	○	○	23
定期考査		○	○			○				1		

2 学期	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	<p>Lesson 5 How Our Minds Work Lesson 6 IT and Life ・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：中間・期末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト/Speech ⑤ Writing ⑥ 提出物等</p>	○	○	○	23
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1
	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	<p>Lesson 7 Advances in Medical Technology Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact ・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：中間・期末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト/Speech ⑤ Writing ⑥ 提出物等</p>	○	○	○	23
定期考査		○	○			○		○	○	○	1	
3 学期	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	<p>Cutting Edge (BLUE) 大学入試問題演習 ・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：学年末 ② Stock 4500英単語テスト ③ Cutting Edge 単語テスト ④ 音読テスト/Speech ⑤ Writing ⑥ 提出物等</p>	○	○	○	26
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1

合計

117

